

問題は回収します

2017 年度

応用人間科学研究科入学試験問題

(2016 年 9 月 18 日実施)

領域共通・小論文

(問題用紙 1 枚、解答用紙 1 枚)

<社会人入学試験>

<2 時限目 60 分>

受験番号	氏名

問題

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

子どもと一緒にいるときに、その「いま」をたのしむことを、私は毎日を子どもと過ごす中で学びました。早く切り上げて次のことをしようと思ったら、そのときは子どもにも大人にも充実した「いま」にはなりません。子どもは大人が本気でそこにいるかどうかをすぐに見抜きます。たとえ二、三分でも、子どもと共にいるその「いま」に腰を据えてたのしめるようにするとき、そこから次の時間が展開します。

私が子どもの現場で過ごすようになって知ったことの一つは、人間にとっての過去と現在と未来との関係です。子どもとの生活はその原型を見せてくれます。

子どもは自分自身が過去からひきずっている悩みがあるとき、それを「いま」の行動に表現します。「いま」をゆっくりとつき合ってくれる人に見せるのです。それは大人の因果関係とは別の見方です。親が甘やかしたからこんなになったというような因果関係の眼で見たら、いま子どもの心の中に動いている過去を見ることはできません。

未来についても同様です。子どもは自分が手近になしうることをしながら、その次になしうる未来を探っています。こんなことをさせておいたら大きくなってから困るだろうと、未来の姿を先にきめて現在を評価したのでは、子ども自身が挑戦している未来を見ることができなくなってしまいます。大人の未来に対する不安は限りなく増幅します。

「いま」を生命的に生きられるようにするとき、子ども自身が自らの過去を新たな目で見るようになります。いまの生き方によって過去は変化するのです。その中から子どもは次にすることを着実に見つけます。それは大人の予想をこえることがしばしばです。未来は現在の中から生み出されています。

子どもと大人とが一对一の関係でゆっくりと交わることは、複数の人々との生活の核をなす部分です。一对一の「いま」を充実させると、子どもの方からその関係をこえて別の人との関係をつくっていきます。子どもがその人を求めるときには十分につき合うのですが、子どもの方から離れて行くときにはそれを追うことはしません。そのとき子どもはひとりの活動に向い、あるいは他の人との関係をひろげてゆきます。学校は固定した人間関係ではなく、開かれた関係をつくる場です。

津守 真 「4 人間の発達にかかわる」(稲垣忠彦ほか 『障害児教育 発達の壁をこえる (シリーズ授業 10 実践の批評と創造)』岩波書店、1991年、pp. 183-185. 表記を一部改変)

(1) 下線部「それは大人の因果関係とは別の見方です。」とあるが、どのような見方であろうか。説明しなさい。(400字以内)

(2) この文章の内容とあなた自身のこれまでの社会経験(実践経験)をふまえて、「対人援助」のあるべきすがたについてのあなたの考えを述べなさい。(400字以内)